

エビデンスに基づく

# 効果的な スクールソーシャルワーク事業 プログラム(WEB版)

大阪府立大学21世紀科学研究センター  
スクールソーシャルワーク評価支援研究所

教育委員会担当者とスクール  
ソーシャルワーカーの優れた  
取り組みをもとに、全国調査  
を行って開発してきた、目標と  
達成段階が明確なプログラム

※1 文部科学省平成27年度の委託事業として進めてきました。

※2 文部科学省「教育相談等に関する調査研究協力者会議」報告書(SSWガイドラインを含む)に、  
本プログラムの内容が取り入れられています。

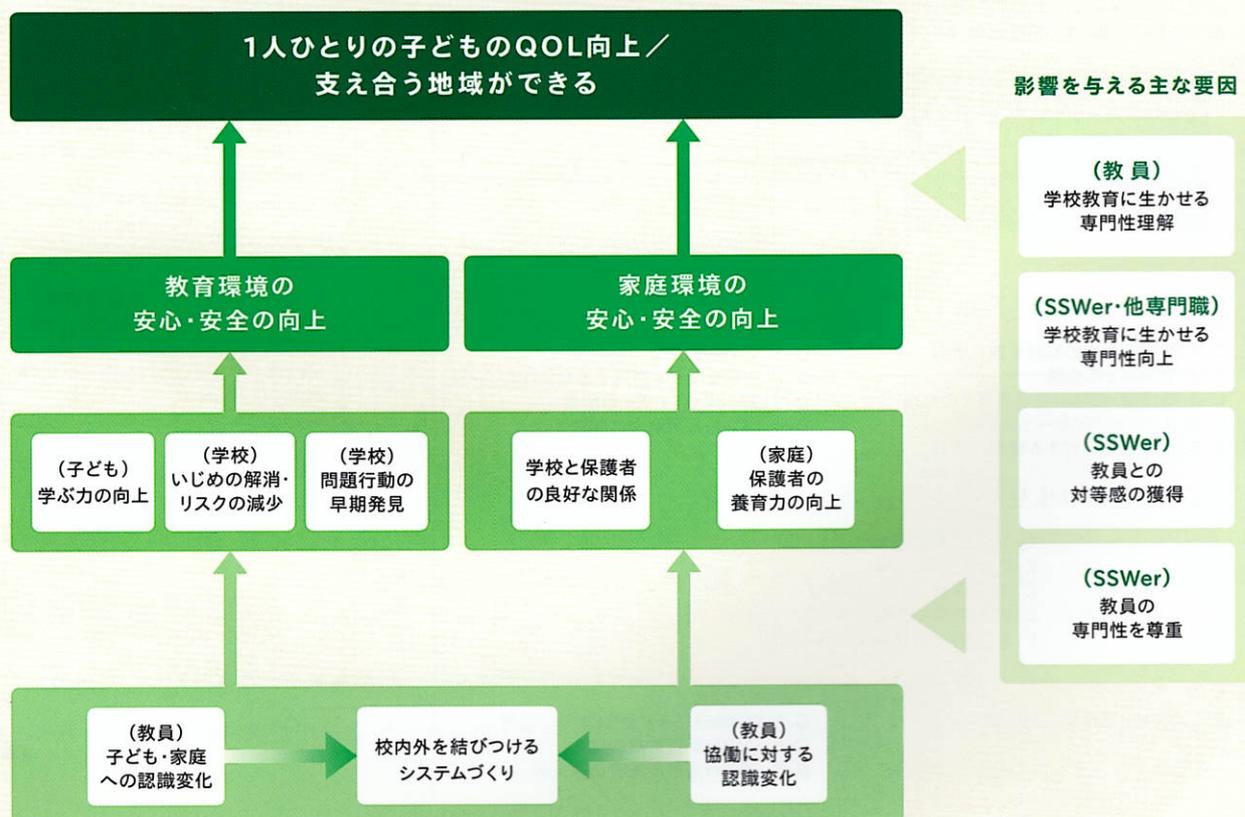


## 効果的なSSW事業プログラム(WEB版)の目標と、そのステップ

子どもたちを取り巻く環境が複雑化するなかで、  
福祉的なアプローチから解決を図るスクールソーシャルワーク(SSW)。

このプログラムは、子どもの最善の利益のため、  
教育委員会とスクールソーシャルワーカーが何をすべきかを行動レベルで明らかにしたものです。

各項目の援助要素を実践に照らし合わせてチェックすることによって、  
より効果的なSSW活用事業を運営することができます。



# 教育委員会から見た 活用ポイント

教育委員会が行う取り組みの  
プロセスを明確化！

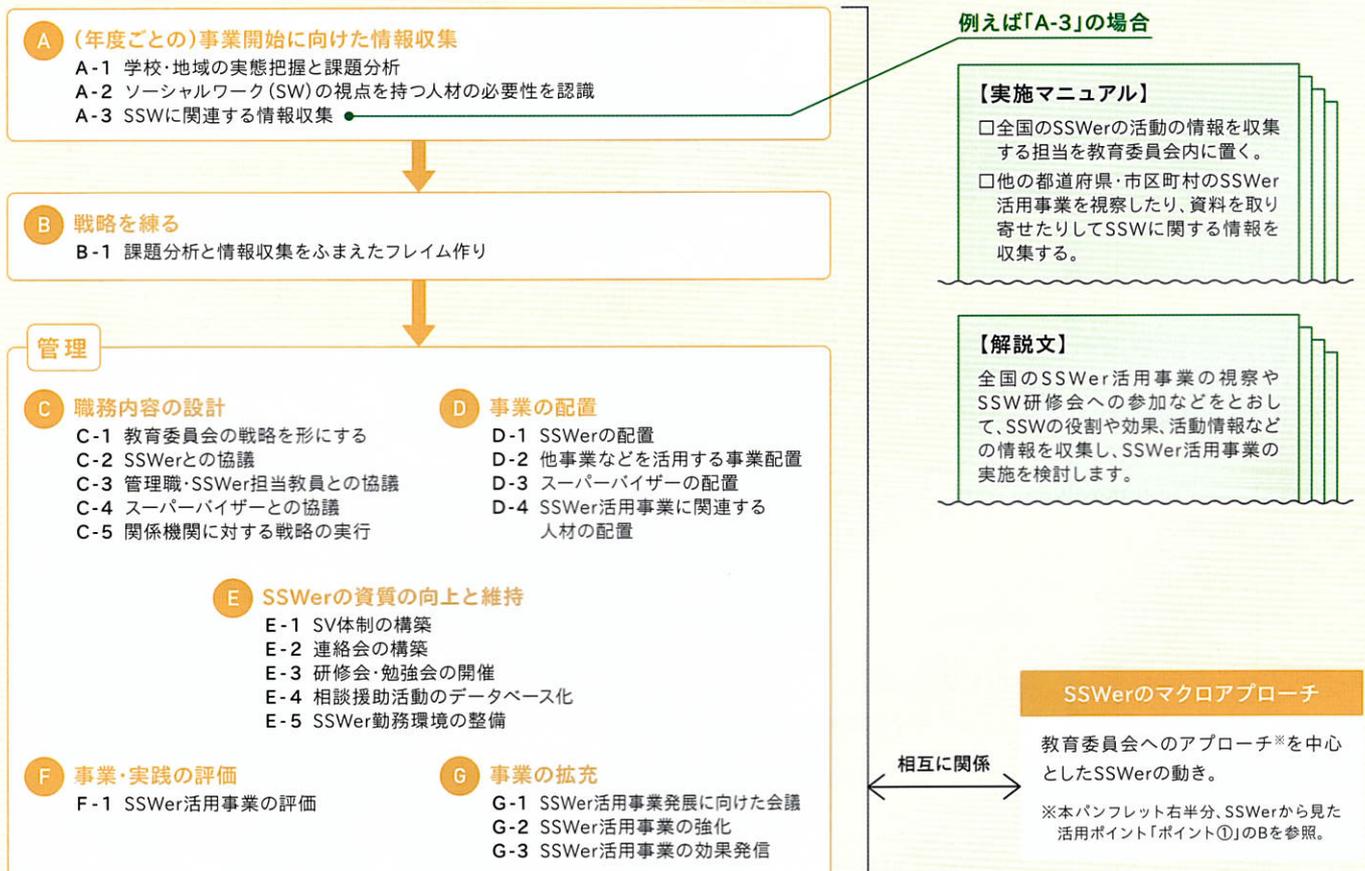


## ポイント①

目標達成に向けた全体像を  
7領域、全22項目で提示。

教育委員会担当者が行う取り組み（組織計画）を実現するためのプログラム構成が、7領域22項目で示されています。事業開始に向けた情報収集から戦略を練り、実施項目を管理。一連の流れを上位の項目から一つずつ実施していく

ことで、SSWの効果的な事業展開が実現できます。SSWerだけでなく、教育委員会が行う取り組みをプロセスに沿って明確化したことは、本プログラムの特徴の一つといえるでしょう。

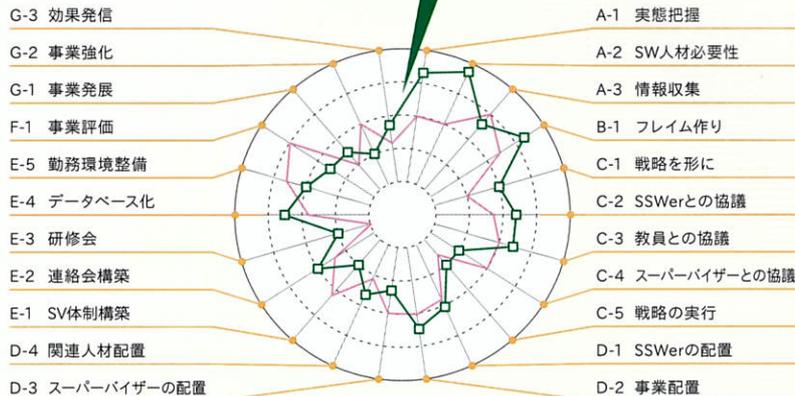


## ポイント②

### 実施項目の進捗を視覚化。

各項目を実施すると、教育委員会のプログラム実施度が図のようにレーダーチャート化されます。

下記「ポイント③」のような効果との関連を視覚化するだけでなく、マニュアルの実施度を示し、時期による前後比較も可能。WEB上で簡単にチェックできるマニュアルも用意されています。



レーダーチャートのイメージ図

— 全国平均 □ ご自身の自治体

## ポイント③

### 多岐にわたる実施効果を数値化。

全国の教育委員会担当者のプログラム実施度と自治体が集約している問題解決の数値データをマッチング。例えば「A-3 SSWに関連する情報収集」などの事業開始にむけた情報収集が、「学ぶ力の向上」や「問題行動の早期発見」などに影

響を与えることが示されています。

このように各項目の実施とその効果の関係を確認できるほか、全国のSSWerの各項目実施度の平均値も確認できます。

プロセス	プログラム項目		効果	(子ども)	(学校)	(学校)
	項目名	平均値		学ぶ力の向上	いじめの解消 リスクの減少	問題行動の 早期発見
A.事業開始に向けた 情報収集	A-1 実態把握	4.22		3.22	3.07	0.61**
	A-2 人材必要性	4.84				
	A-3 情報収集	3.56	0.52**			
B.戦略を練る	B-1 フレーム作り	4.18			0.76**	
C.職務内容の設計	C-1 戦略を形に	2.99				

「A-3 (SSWに関する)情報収集」の実施が「学ぶ力の向上」に影響を与えていることを確認できます。

## 実際にマニュアルを活用した教育委員会からの声

### スーパーバイザーとともに振り返り、議論したところに意義がありました。

SSWerに「マニュアルに基づいた実践の振り返りシート」を事前にメールで送付し、「できたこと」「できなかったこと」を記入してもらい振り返りを行いました。共通理解の元、教育委員会とSSWerが考えている課題をスーパーバイザーとともに振り返り、議論したところに意義がありました。

沖縄県教育委員会 スーパーバイザー

### マニュアルを活用して、SSWerとの協働により作り上げるSSW事業。

マニュアルを活用してみて、SSWerとの「協働」という意識が高まりました。指導主事とSSWerの連絡会でも研修資料として活用したいと思えます。

石狩市教育委員会

# SSWerから見た 活用ポイント

現状を視覚化することで、  
SSW事業を目標達成へと導く。



## ポイント①

効果的なSSW実践のために4領域、  
全30項目を提示。

SSW実践の目標を実現するためのプログラム構成が、4領域30項目で示されています。

教育委員会、学校組織、関係機関や地域、子どもや保護者への各アプローチを上位の項目から一つずつ実施していくことで、効果的な取り組みを実現できます。

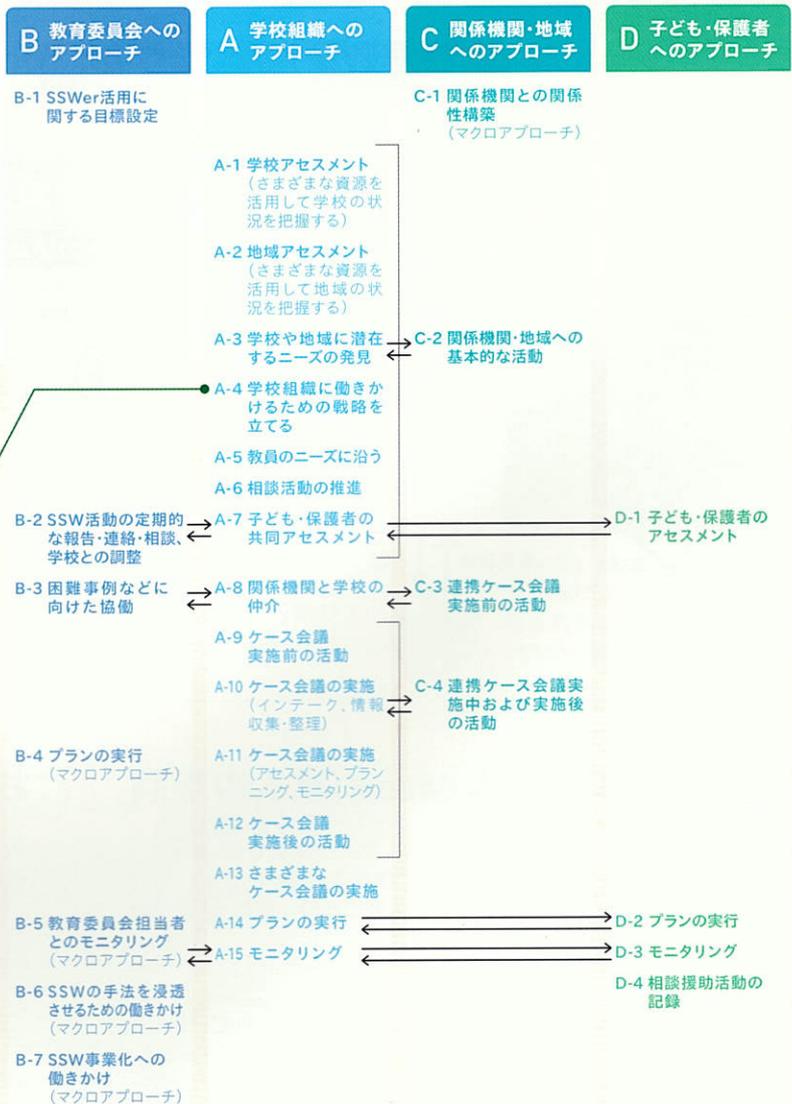
例えば「A-4」の場合

### 【実施マニュアル】

- 学校アセスメントに基づいて、学校の課題について管理職などと話し合いを持つ。
- 学校が相談活動をSSWerに依頼するかどうかの意向を確認するとともに、どのようなゴールに至れば…

### 【解説文】

学校アセスメントに基づき、管理職などの教員とともに戦略を立てることによって、問題の解決につながります。管理職などと協働して、どこをどのように変えていけばよいかを話し合い、学校組織の必要なところに…



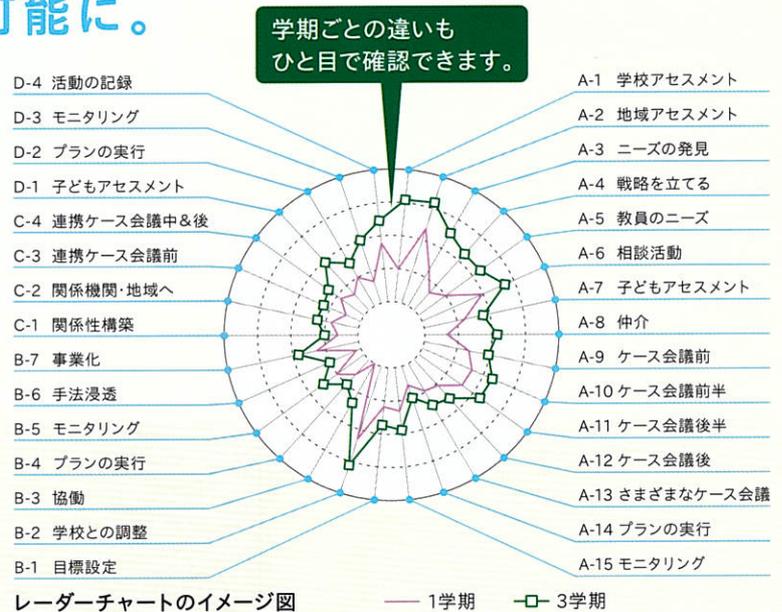
※A-6～A-15、B-2～B-5、C-3、C-4で実施していることは、すべて子ども・保護者へのアプローチと関連しています。また、子ども・保護者との関係性構築といった項目はSWの基本であると捉えられています。そのため、それらの項目は実践していることを前提としています。

## ポイント②

# SSWの実践をWEB上で簡単チェック、 時期による前後比較も可能に。

各項目を実施すると、SSWerのプログラム実施度が右図のようにレーダーチャート化されます。

下記「ポイント③」のような効果との関連を視覚化するだけでなく、マニュアルの実施度を示し、時期による前後比較も可能。WEB上で簡単にチェックできるマニュアルも用意されています。



## ポイント③

# プログラム実施度と効果の数値データをマッチング。

全国のSSWerのプログラム実施度と自治体が集約している効果の数値データをマッチング。例えば右表では「A-3 潜在するニーズの発見」などの学校組織へのアプローチが、「学ぶ力の向上」や「いじめの解消・リスクの減少」などに影響を与えることが示されています。

このように各項目の実施とその効果の関係を確認できます。

アプローチ先	プログラム項目	効果				
		項目名	平均値	(子ども) 学ぶ力の向上	(学校) いじめの解消 リスクの減少	(学校) 問題行動の 早期発見
				3.17	3.03	4.02
A.学校組織	A-1 学校アセスメント		4.13			0.63**
	A-2 地域アセスメント		4.26	0.44**	0.72**	
	A-3 潜在するニーズの発見		3.44	0.52**		
B.教育委員会	B-1 目標設定		3.23		0.76**	
	B-2 学校との調整		3.7			
	B-7 SSW事業化への働きかけ (マクロアプローチ)		3.02		0.61	

「A-3 潜在するニーズの発見」の実施が「学ぶ力の向上」に影響を与えていることを確認できます。

## 実際にマニュアルを活用したSSWerからの声

### 地域の現状や社会資源のマップ作りなどの効果につながっています。

研修では、指導主事とSSWerが集い、チェック結果を示すレーダーチャートを見て、各自ができたところ、できなかったところとその理由を分析し共有しています。その後、何か一つ、明日から取り組むことを考えます。

その結果、定例連絡会の開催や、地域の現状や社会資源のマップ作りなどの動き(効果)につながっています。「何をすればいいか」についての議論は非常に盛り上がります。

山口県教育委員会 SSWer・スーパーバイザー

### 教委や関係機関との協働を考える時にも活用できるのでは。

SSWerがまずチェックに参加し、結果の振り返りから、教育委員会への働きかけが重要であることに気づきました。働きかけによって、県やいくつかの自治体がチェックに参加してくれました。また、ワークショップを実施したことで、マニュアルの理解が深まってきたと感じています。

今後は、SSWerの資質向上だけでなく、教委や関係機関との協働を考える時にも活用できるのではないかと考えています。

福井県 SSWer



## 本プログラムが解決できる問題

### 問題①

#### SSW実践の目的や方法がバラバラで、指針がない

本プログラムは、実践における一指針として活用することでスクールソーシャルワーカー(SSWer)同士をつなぐ共通言語となり、互いの実践を共有し合うための有効なツールとなります。

### 問題②

#### 実践による効果と課題が把握できない

教育委員会担当者とSSWerの取り組みの現状がレーダーチャートによって表され、前回入力時や全国の傾向とも比較できます。さらに活動の効果が数値化され、その成果と課題を視覚的に理解することができます。

### 問題③

#### 教育委員会とSSWerの専門領域が異なるために、うまく協働できない

教育委員会担当者とSSWerが、本プログラムに基づいてそれぞれの課題を協議し、実行し、確認し合う協働作業を繰り返すことによって、自治体の事業全体を発展させることができます。

## 本プログラムの特徴

### 特徴① エビデンスに基づく実践項目

取り組む活動を幅広く網羅した効果的援助要素である項目で構成しています。

### 特徴② 各項目の実施度を確認

日々活動しながら、スマホからでもレーダーチャートで実施度と効果を簡単にチェックできます。

### 特徴③ ワークショップで実施効果を確認

実施項目をチェックするだけで、効果との関連を視覚的に理解できる資料が作成可能です。ワークショップで、活動を客観的に振り返り、できなかった項目について分析しながら乗り越えていきます。



ワークショップを行うことで、エビデンスに基づいた適切な判断と、教育委員会とSSWerの協働を促します。

## 効果的なSSW事業プログラム(WEB版)導入のイメージ



# スクールソーシャルワーク評価支援研究所について

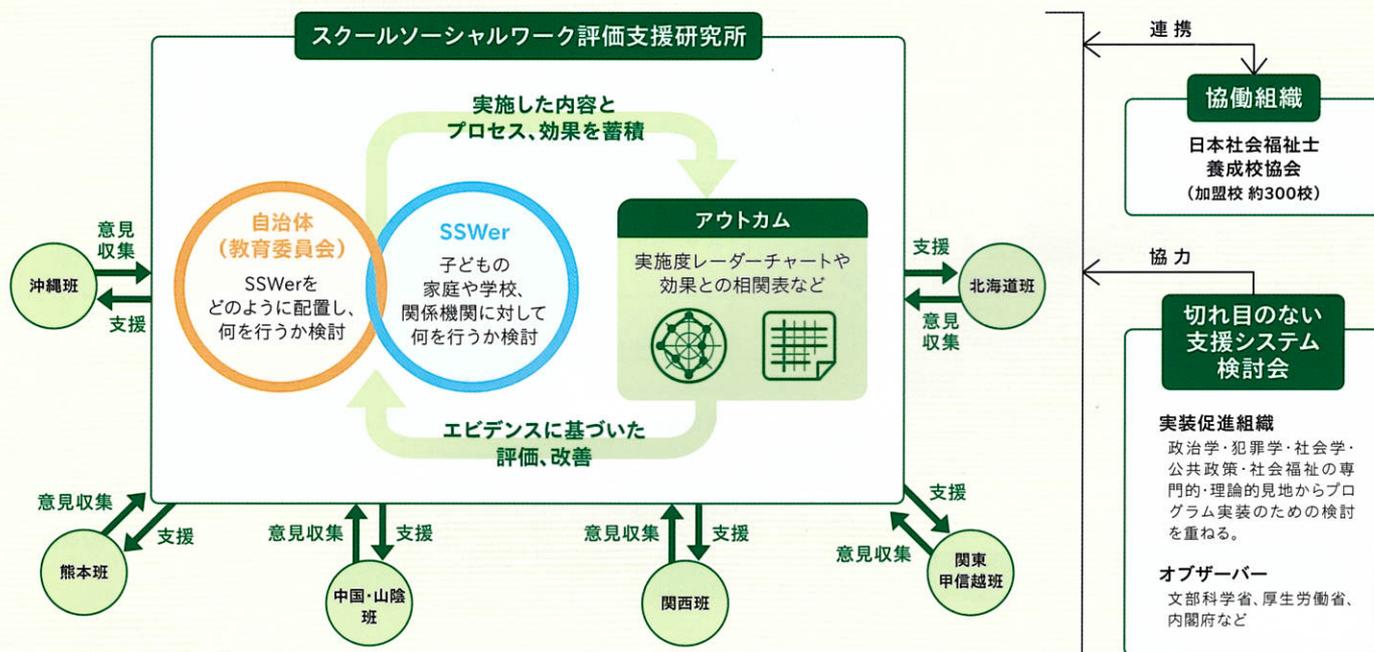
子どもをめぐる課題、社会的ニーズとして  
 ①貧困や孤立などが見えない②就学後に連携して検討できる仕組みがない、といったことが挙げられます。これらに対応するための1つの方策として、SSWerが社会に認知され機能していくことが求められています。しかし、そのSSW実践はまだ明確ではなく全国的にも不統一です。

この課題に対応するために、本研究所では効果的なSSW事業プログラムを構築してきました。これからも、子どもをめぐる課題解決のために、同プログラムの普及や評価・改善を重ねていきます。

## 構成員

所長	山野 則子(大阪府立大学人間社会システム科学研究科 教授)
客員研究員	大島 巖(日本社会事業大学 学長) 小川 正人(放送大学 教授・東京大学 名誉教授) 潮谷 有二(長崎純心大学 教授) 大谷 圭介(文化庁文化財部伝統文化課 課長) 中野 澄(国立教育政策研究所 総括研究官) 比嘉 昌哉(沖縄国際大学 准教授) 横井 葉子(上智大学 非常勤講師) 大友 秀治(北星学園大学 講師) 渡邊 香子(横浜市教育委員会 統括SSWer) 岩金 俊充(やまぐち総合教育支援センター SSWerスーパーバイザー) 福島 史子(鳥取県教育委員会 SSWerスーパーバイザー) 愛沢 隆一(日本社会福祉士会 副会長)
大阪府立大学内 研究員	川原 稔久(人間社会システム科学研究科 教授) 総田 順次(人間社会システム科学研究科 教授) 植木野 裕実(看護学研究科 教授) 星野 聡孝(高等教育推進機構 教授) 伊藤 嘉余子(人間社会システム科学研究科 准教授) 古山 美穂(看護学研究科 講師) 駒田 安紀(人間社会システム科学研究科 特認助教)

## 研究組織と構造 (6つの地域で実践を展開していきます)



## SSW事業プログラム(WEB版)導入の手順

### 1. お問い合わせ

「WEB版プログラムについて相談したい」とまずはメールにてご連絡をお願いします。ご質問だけでもお気軽にお問い合わせください。

### 2. 利用窓口のご案内

利用窓口をご案内します。ご不明な点があれば回答させていただきます。

### 3. ご利用開始

お申込後にID・パスワードをお渡しし、WEB版プログラムのご利用がスタートします。

## お問い合わせ先

### スクールソーシャルワーク評価支援研究所

〒599-8531 堺市中区学園町1番1号  
 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 山野研究室内  
 MAIL eb-ssw@sw.osakafu-u.ac.jp  
 WEB <http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/>

※このパンフレットは、効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会に参加した皆様方よりいただいたご意見をもとに作成いたしました。(2016.12)

※本冊子に掲載している図はすべて、山野則子編著(2015・明石書店)『エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク:現場で使える教育行政とその協働プログラム』から引用し、本冊子に合うよう図を改変したものです。